

教科等研究会（中学校道德部会）

平成28年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

道徳的価値の自覚を深める道徳教育のあり方
～道徳的実践力を高める授業づくり～

2 研究経過

| 第1回 | | | 第2回 | | | 第3回 | | | 第4回 | | |
|-----|----|-----|-----|-----|-----|-------|------|--------|-----|-----|-----|
| 期日 | 人数 | 場所 | 期日 | 場所 | 内容 | 期日 | 場所 | 授業者 | 期日 | 場所 | 内容 |
| 6/2 | 8人 | 甲佐中 | 8/8 | 甲佐中 | 研修会 | 12/12 | 嘉島西小 | 桑原麻衣教諭 | 2/6 | 木山中 | まとめ |

3 研究の概要

(1) 研究の内容

本年度の上益城郡教科等研究会全体テーマ『児童生徒一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」授業づくり』を受け、本部会では、道徳の時間において生徒が「分かる・できる」授業とはどのようなものかを検討した。討議の中で、道徳教育における「分かる」とは、生徒が資料や実体験を通して道徳的な価値を深め、それを自覚することが「分かる」ということになるのではないかという結論に至り、本部会では研究テーマを「道徳的価値の自覚を深める道徳教育のあり方」に設定した。また、「できる」とは、道徳的価値を理解し、それを実践することではないかと考え、サブテーマを「道徳的実践力を高める授業づくり」とした。

今年度は4月に熊本地震が発生し、4月当初は学校の教育活動再開に向けての目処が立たなかったため、例年実施している中学校単独の授業研究会は中止し、代わりに各中学校で実践した取組を持ち寄り、互いに学習することとした。あわせて、上益城郡内でも数多くの生徒が被災したが、地震後の心のケアについても道徳教育を通じて取り組んでいくことを確認した。

① 教師の実践力を磨く研修

夏季休業中の研修では、御船町立滝尾小学校の大江律子教頭より、教育課程企画特別部会論点整理の概要から、これからの道徳授業と題して講演していただいた。講演では、学習指導要領改訂の3つの視点、育成すべき資質・能力、アクティブラーニングの視点から見た道徳教育などについて解説された。

学習指導要領改訂の視点については、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」が大切であり、育成すべき資質・能力では、「何を知っているのか、何ができるか」（個別の知識・理解）、「知っていること・できることをどう使うか」（思考力・判断力・表現力等）、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（学びに向かう力、人間性等）が大切であることを教えていただいた。

また、アクティブラーニングの視点からは、「考え・議論する」道徳教育への転換をキーワードに、「読み物道徳」から脱却して、問題解決型の学習や体験活動的な学習などを通して、自分ならどのように行動・実践するかを考えさせる。加えて、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多角的・多面的に学び、実践へと結びつけ、さらに習慣化していく指導へと転換していくことが重要との示唆をいただいた。

さらに、授業改善として発問の工夫について、立ち位置や大きさなどといった視点からわかりやすく解説していただいた。これらの視点をもとに、部会員で「熊本の心」から、「異国の地で生涯を捧ぐ」について指導案の検討を行った。

② 小中合同の授業研究会実施

本部会では、小学校と一年おきに研究授業を担当し、互いに意見を交換しながら協議を深めている。今年度は小学校の授業として、嘉島町立嘉島西小学校学校の桑原麻衣教諭に「私

たちの道徳」の中から「きいろいベンチ」（内容項目C－（1）公德心・規則の尊重）を扱い、研究授業を実施した。

授業では、自分たちが楽しい一心で遊んでいたことが、他者に迷惑をかけたことに気づいて「はっ」とする部分をしっかりと考えさせることで、他者への意識を持って行動できる心を育成することを目標として設定した。そのための工夫点として、授業の導入では児童の現状を写真などで提示し、興味関心を想起した。展開では、紙飛行機を飛ばすことに夢中になっている二人の気持ちに十分共感することができるように、資料を前半・後半に区切って提示した。終末では、できていないところを指摘するのではなく、できているところを提示する、担任が言うのではなく、学校長に誉めてもらうことにより、「これからもみんなのことを考えて行動しよう」、「これからもっとよりよい行動をしよう」という気持ちを起こさせることを目的とした。

また、場面を想起させるための工夫として、生活科で「紙飛行機をつくって遊ぼう！」という学習を設定することで、紙飛行機を飛ばすことの楽しさや、もっと遠くへ飛ばしたい、もっとたくさん飛ばしたいなどの気持ちを実際に体験させ、主人公が夢中になっているときの気持ちに共感できるように工夫した。

③ 各学校の道徳教育実践状況の報告

本年度は、中学校単独での授業研究会を実施しなかったため、各学校で今年度実践した道徳教育の内容を持ち寄って活動状況の報告を行った。具体的な内容は、実践事例に記載する。

また、益城町立木山中学校永瀬善久校長から、「特別の教科道徳」の指導方法・評価等について解説していただいた。

(2) 成果と課題

成果

- ・夏季研修会では、御船町立滝尾小学校の大江律子教頭からこれからの道徳教育について解説していただいた。平成31年度からの中学校の教育課程全面実施に向けて、計画的に取り組んでいくための様々な示唆をいただき参考になった。また、発問の整理や工夫など、授業づくりに参考となる視点を数多く与えていただいた。
- ・小・中合同の授業研究会を行うことで、それぞれの校種の視点から意見交換ができた。小学校の状況なども聞かせていただき、子どもの発達段階を考慮した授業づくりの参考となった。
- ・各学校の道徳教育の実践状況を持ち寄ることで、自校での活用を図る上で参考になった。

課題

- ・授業研究会では、小学校・中学校それぞれの視点から活発な意見交換ができた。しかし、事前の指導案検討会には中学校からの参加が少なかったため、今後校種を超えた連携をさらに深めていく必要がある。
- ・今年度は熊本地震の影響で、中学校単独の研究授業を中止した。来年度は中学校が小中合同授業研究会を担当するので、小学校としっかり連携して研究を進めていく必要がある。
- ・熊本地震で被災した生徒に対して、道徳教育を通して心のケアを実施している学校があり、今後も様子を見ながら活動を継続していく必要がある。

4 実践事例

(1) 御船町立御船中学校

① 校内研修

御船中学校では、夏季休業中の校内研修で、平成31年度からの「特別の教科道徳」実施に向けて、熊本県道徳教育推進協議会からの5つの提言をもとに校内研修を実施した。

② 「熊本の心」を使用した授業の実施

9月の第2週に「熊本の心」実施Weekを設定し、各学年で授業を行った。1年生では「打撃の神様（川上哲治）」、2年生では「異国の地で生涯を捧ぐ（ハンナ・リデル）」、3年生では「ただ涙縦横（松崎慊堂）」を実施した。また、熊本の心作文募集に出品した。

③ 道徳授業のユニバーサルデザイン

今年度、御船中学校ではユニバーサルデザインの視点に基づき、生徒全員が「わかった・できた」と言える授業を目指して授業改革に取り組んでいる。道徳でも全員が参加し、道徳的価値を深める授業づくりに取り組んだ。

(2) 益城町立木山中学校

① 道徳アンケートの実施と分析

生徒の道徳性や道徳的実践力の高まりを検証するために、道徳に関するアンケートを7月と12月に実施した。道徳の内容項目を30個に分類して質問として提示し、それに対して自分の実態を4段階で評価させた。アンケートを通して、生徒の道徳性や道徳的実践力を客観的に検証し、道徳授業や日頃の授業に活かすことができた。

② 道徳授業における工夫

生徒の心により響く道徳授業を目指して三つの工夫を行った。一点目は話し合い活動を取り入れることである。お互いの意見を話し合った後、ホワイトボードを使用するなどして練り上げを図った。二点目はG Tの活用である。道徳の授業研究会でも、「G Tの話は新鮮さがあり、こどもの心に響きやすい」「G Tの話で狙いの本質に迫ることができた」などの意見が出された。第三点として、ロールプレイの場面を設定した。読み物資料をより自分自身に近づけることができ、生徒は活発に意見を出すことができた。

③ 道徳掲示板の活用

道徳掲示板に、「わたしたちの道徳」コーナー、「心に響く詩」コーナーを設けている。今年度は、地震によりふるさとを離れる人もいるが、生徒たちにふるさとを大切にしたいという願いを持って作成している。

(3) 益城町立益城中学校

① 今年度の目標

年間指導計画通りに道徳の授業を行う。道徳担当が、その週の道徳ワークシートを学年の黒板に貼り、意識を高める。また、個人で持っている道徳の教材を共有していく。あわせて新学習指導要領の実施に向け、ワークシートを持ち寄り、評価について話し合う機会を持つ。

② 実際の取り組み

- ・地震後の心のケアとして、「はるかのひまわり」を教材として使用し、地震のことをマイナスばかりではなくプラスとして捉えていけるような授業を行った。その後、美化委員会を中心に「はるかのひまわり」の種をまき、花を咲かせることができた。
- ・地震後、支援の先生に「心のケア」の授業をしていただき、全クラスで緊張のほぐし方やリラックスの方法を学ぶことができた。
- ・2学期の授業参観では、東日本大震災後につくられた教材「たった1秒のありがとう」を使い、支援のありがたさを再び見直す授業を行った。

③ 成果と課題

- ・今年度は地震の影響もあり、年間指導計画通りに授業を進めることができないことがあった。しかし、地震があった今だからこそ学べることも多くあり、適切な材料を使い授業を行うことで、生徒たちもより深く考えることができた。
- ・授業後、ワークシートを持ち寄り、評価について話し合う機会を持つことができなかった。来年度は、ぜひ校内研修の一つに道徳の教科化に向けての取り組みを入れ、授業後に評価について各学年毎に話し合う機会を確保していきたい。

(4) 山都町立清和中学校

① 年間指導計画の見直し

道徳の教科化に向けての内容変更に伴い、年度当初に年間指導計画の見直しを行った。「私たちの道徳」の題材も各学年の段階に応じて明記し、活用を促した。

② 道徳コーナーの設置

学校行事や総合的な学習の時間での地域との交流、人権学習などの時期に合わせて「わたしたちの道徳」から学年に合ったものを選んで、掲示している。

